

岡山対がんシンポジウム2012

テーマ 『子宮がん』

～今、若い女性の子宮頸がんと

中高年女性の子宮体がんが増えています～

プログラム

I. 講演会 午後1:30～3:30

司会 岡山県健康づくり財団 守谷 欣明

「子宮頸がんと子宮体がんはどこが違うのか」

川崎医科大学産婦人科学 教授 中村 隆文



中村 隆文 (なかむら たかふみ)

1982年 旭川医科大学卒業、米国国立保健衛生研究所(NIH) 研究員を経て、
98年大阪大学医学部産婦人科助手、2004年富山大学産婦人科准教授、
09年11月から 川崎医科大学産婦人科学教授

日本婦人科腫瘍学会専門医、日本がん治療認定医、子宮頸がん・子宮体がんなどの診断と治療で豊富な経験があり、進行がんに対する集学的治療、漢方薬による免疫療法にも取り組む。

《中村 隆文先生から》

子宮頸がんは、若年女性の罹患率が急上昇していて、早期発見には頸がん検診が有効で、予防ワクチンもあります。一方、子宮体がんは、中高年の女性に多く、最近罹患率が上昇して、子宮頸がんを追い越そうとしています。子宮体がん検診は、子宮頸がん検診に比べやや痛みを伴うこともありますが、閉経後の不正出血の検診が早期発見に重要となります。

診療のモットーは、進行した婦人科癌患者様に対してでも、明るく接して、笑ってもらい、癌に対する自然免疫を上げて元気になってもらうことです。

II. 質疑応答 午後3:30～4:00

ご来場の皆様と講師の先生と質疑応答の時間を設けていますので、引続きご参加下さい。

とき 平成24年 6月2日(土)

午後1:30～4:00

ところ 岡山県南部健康づくりセンター
2階 大会議室

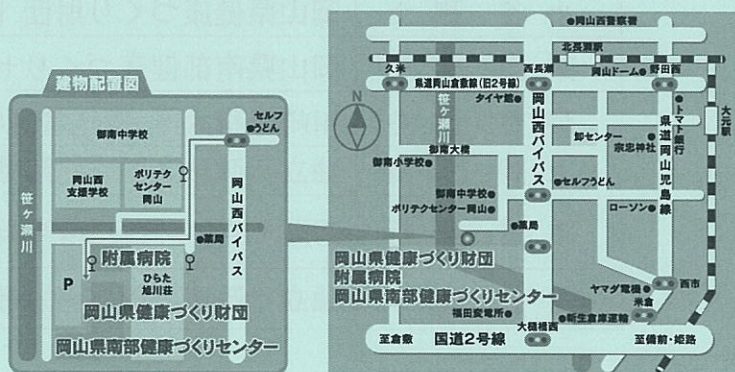
岡山市北区平田408-1

TEL (086) 246-6250

どなたでも自由に参加して頂けます

参加費無料

主催 岡山対がん研究会・岡山県健康づくり財団
後援 岡山県・岡山県医師会
山陽新聞社・RSK山陽放送



※駐車場に限りがあります。ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください。
岡電バス 卸センター・健康づくり財団線「健康づくり財団病院前」下車
天満屋バスステーション4番のりば(35分)
岡山駅バスターミナル6番のりば(25分)

問い合わせ先

岡山県健康づくり財団 総務課

岡山市北区平田408-1

Tel 086-246-6254

岡山対がん研究会

1 目 的

がんの研究は近年急速に進歩し、その対策も世界的に着々となさされてはいるが、死亡数を減少させるためには未だ十分に成果を挙げているとは言い難い。そこで、岡山県においても、今一度がんを改めて見直すことにより、その予防を主眼に、臨床的な諸問題を前がん病変に至るまで再検討し、同時に、新しい情報により県民に対するがん知識の普及啓発を行って、その対策に役立てる。

2 活動内容

- (1) がん（前がん病変を含む）の一次予防、二次予防を充実させる。
- (2) 毎年、次のように一般県民及び医療関係者に対して普及啓発を行う。
春期：岡山対がんシンポジウムを開催する。
秋期：9月のがん征圧月間に県および県医師会と連携して講演の企画を行う。
- (3) 対がん事業に対して学術的な支援を行う。

3 世 話 人

氏 名	役 職 名
守 谷 欣 明	岡山県健康づくり財団 理事（会長）
小 谷 秀 成	小谷内科小児科医院長
沼 田 健 之	岡山県健康づくり財団 保健部長（岡山県南部健康づくりセンター長）
西 井 研 治	岡山県健康づくり財団 附属病院長
小 谷 剛 士	岡山県健康づくり財団 附属病院副院長
柴 山 卓 夫	岡山県南部健康づくりセンター 次長
藤 井 昌 史	川崎医科大学 健康管理学教授
上 岡 博	独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター院長
木 浦 勝 行	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器・アレルギー内科 教授
玄 馬 顕 一	独立行政法人国立病院機構 福山医療センター呼吸器科 医長

《事 務 局》

財団法人岡山県健康づくり財団 総務課

〒700-0952 岡山市北区平田 408-1 Tel.086-246-6254

